2024年度　環境経営活動レポート

2025年1月15日　発行
株式会社サンワ
（対象期間：2023年11月～2024年10月）

目次

ページ

1. 事業概要 3

2. 対象範囲 3

3. 環境経営方針 4

4. 環境経営目標 5～6

5. 環境経営活動計画 7～8

6. 環境経営目標の実績 9～10

7. 環境経営活動計画の取組結果と次年度の取組内容

　7-1. 環境経営活動計画の取組結果とその評価 11～13

　7-2. 次年度（2024年度）の取組内容 14

8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反・訴訟等の有無 15

9. 代表者の全体の評価と見直し結果 15

1. 事業概要

(1) 事業者及び代表者名
株式会社サンワ
代表取締役社長　　　片寄　暢人

(2) 所在地

本社佐野工場	〒327-0102	栃木県佐野市出流原町461
静岡事業所	〒422-8044	静岡県静岡市駿河区西脇966
岩舟事業所	〒329-4309	栃木県栃木市岩舟町畳岡698
和泉倉庫	〒329-4303	栃木県栃木市岩舟町和泉660

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

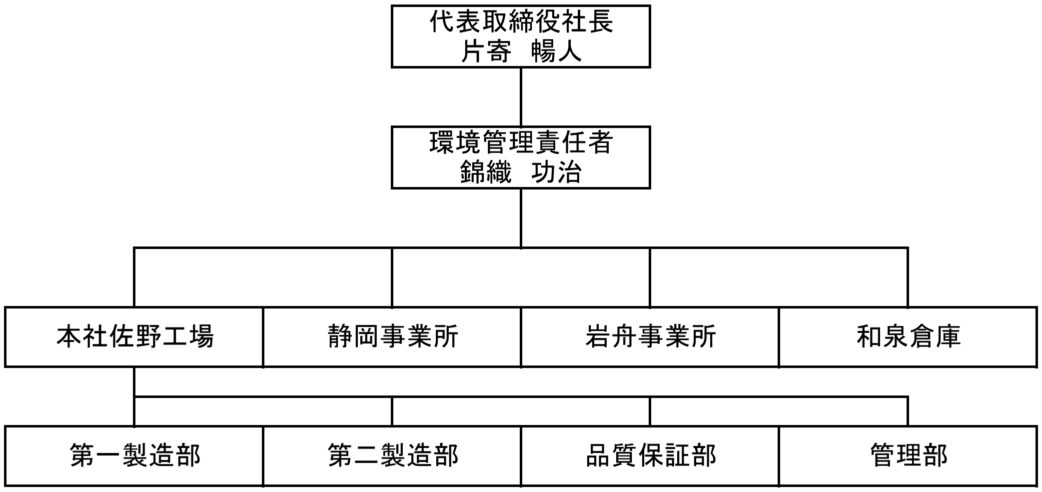
環境管理責任者	取締役	錦織　功治
連絡先	TEL：0283-25-2882	
	FAX：0283-25-2883	
	Email：koji-nishikiori@sanwass.co.jp	

(4) 事業活動
家電製品部品製造

(5) 事業規模

売上高	7億1,084万円（2023年度実績）
従業員数	46名
敷地面積	4,010㎡
	（本社：1,800㎡、静岡：290㎡、岩舟：1,920㎡、和泉919㎡）

2. 対象範囲



2024年度より、全ての組織、全ての活動を認証・登録の対象範囲としている。

3. 環境経営方針

環境経営方針

株式会社サンワは、地球環境に対する謙虚な心と社会に対する貢献の精神を持ち、「ものつくり」を通じて、環境対策に取り組み、目標を定め、継続的改善を推進していきます。

重点取り組み事項

1．二酸化炭素排出抑制に努める。
    1-1　製造・組立業務における電力消費量を削減する。
    1-2　業務用車両の燃料消費量を削減する。

2．工程不具合品を低減し、発生する廃棄処分品を削減する。

3．冷却水等、水の使用量を削減する。

全従業員に周知し、関連する法規制を遵守いたします。

2019年1月26日改定
2009年5月28日制定

株式会社サンワ
代表取締役社長　片寄　暢人

4. 環境経営目標

本社佐野工場　中期環境経営目標

削減項目		2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出抑制 基準値(2023年度) 112,509kg-CO_2	電力消費量削減 (使用量/溶着数)×100 基準指数　49.63 (2023年度実績)	△1% 49.13	△2% 48.64	△3% 48.14
	軽油消費量削減 (使用量/溶着数)×10,000 基準指数　59.12(2023年度実績)	△1% 58.53	△2% 57.94	△3% 57.35
	灯油消費量削減 (使用量/溶着数)×10,000 基準指数　101.65 (2023年度実績)	△1% 100.63	△2% 99.62	△3% 98.60
		111,384kg-CO_2	110,259kg-CO_2	109,134kg-CO_2
製造・販売・サービス に関する目標	組立工程内不良削減 2023年度基準値　2.5%	2.4%以下	2.3%以下	2.2%以下
	押出成型不良の削減 前3年平均基準値　2,200kg	△1% 2,178kg	△2% 2,156kg	△3% 2,134kg
廃棄物排出抑制	産廃(廃プラ)の削減 前3年平均基準値　4,582kg	△1% 4,536kg	△2% 4,490kg	△3% 4,445kg
総排水量削減	冷却水使用量削減 2023年度基準値　2,621m^3	△1% 2,595m^3	△2% 2,569m^3	△3% 2,542m^3
化学物質使用量の削減	ブタノン使用量削減 基準値　0.002ml/枠数	維持管理	維持管理	維持管理

※電気排出係数は、2019年公表の東京電力の0.462を使用。

静岡事業所　中期環境経営目標

削減項目		2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出抑制 基準値(2023年度) 15,223kg-CO_2	電力消費量削減 (使用量/納品数)×1,000 基準指数　34.10 (2023年度実績)	△1% 33.76	△2% 33.42	△3% 33.08
	軽油消費量削減 (使用量/納品数)×10,000 基準指数　13.57(2023年度実績)	△1% 13.43	△2% 13.30	△3% 13.16
	灯油消費量削減 (使用量/納品数)×100,000 基準指数　37.78 (2023年度実績)	△1% 37.40	△2% 37.02	△3% 36.65
		15,071kg-CO_2	14,919kg-CO_2	14,766kg-CO_2
製造・販売・サービス に関する目標				
廃棄物排出抑制	産廃(廃プラ)の削減 前3年平均基準値　348kg	△1% 345kg	△2% 341kg	△3% 338kg
総排水量削減	水使用量削減 基準値　36m^3　維持管理	維持管理	維持管理	維持管理
化学物質使用量の削減	ブタノン使用量削減 基準値　0.002ml/枠数	維持管理	維持管理	維持管理

※電気排出係数は、2019年公表の中部電力の0.472使用。
※製造・販売・サービスに関する目標は設定いたしません。

岩舟事業所　中期環境経営目標

削減項目		2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出抑制 33,190kg-CO_2	電力消費量削減 （使用量/売上高）×1,000 基準指数　207.67（2023年度実績）	△1% 205.59	△2% 203.59	△3% 201.44
	ガソリン消費量削減 （使用量/売上高）×1,000 基準指数　17.28（2023年度実績）	△1% 17.11	△2% 16.93	△3% 16.76
	灯油消費量削減 （使用量/売上高）×1,000 基準指数　19.71（2023年度実績）	△1% 19.51	△2% 19.32	△3% 19.12
		32,858kg-CO_2	32,526kg-CO_2	32,194kg-CO_2
廃棄物排出抑制	可燃ゴミの削減 基準値　54kg（18袋）維持管理	維持管理	維持管理	維持管理
総排水量削減	水使用量の削減 基準値　60m^3　維持管理	維持管理	維持管理	維持管理
製造・販売・サービスに関する目標	ユーザークレームの撲滅	クレーム数0	クレーム数0	クレーム数0

※電気排出係数は、2019年公表の東京電力の0.462を使用。
※化学物質については、使用がないため目標に掲げていない。

和泉倉庫　中期環境経営目標

削減項目		2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出抑制 基準値（2023年度） 22,253kg-CO_2	電力消費量削減 （使用量/納品数）×10,000 基準指数　69.06（2023年度実績）	△1% 68.37	△2% 67.68	△3% 66.99
	軽油消費量削減 （使用量/納品数）×10,000 基準指数　19.93（2023年度実績）	△1% 19.73	△2% 19.53	△3% 19.33
	灯油消費量削減 （使用量/納品数）×100,000 基準指数　45.61（2023年度実績）	△1% 45.15	△2% 44.70	△3% 44.24
		22,030kg-CO_2	21,808kg-CO_2	21,585kg-CO_2
製造・販売・サービスに関する目標				
廃棄物排出抑制	産廃（廃プラ）の削減 前3年平均基準値　4,582kg	△1% 4,536kg	△2% 4,490kg	△3% 4,445kg
総排水量削減				
化学物質使用量の削減	ブタノン使用量削減 基準値　0.002ml/枠数	維持管理	維持管理	維持管理

※電気排出係数は、2019年公表の中部電力の0.472使用。
※製造・販売・サービスに関する目標は設定いたしません。
※上下水道の使用はありません。

5. 環境経営活動計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

①節電活動(もったいない運動)の展開
- 昼休み消灯の実施
- エアコンの温度設定(夏:28℃、冬:23℃)
- アニール室温度管理
- 不使用箇所の消灯

②エコドライブの推進
- アイドリングストップ
- 急発進、急加速をやめる
- 定速走行
- 満載で走る

③灯油の節約活動(もったいない運動)
- 適正室温管理
- アニール時間管理

(2) 製造・販売・サービスに関する目標

①組立工程内不良率低減
- 溶着機・金型の点検、整備
- 作業指導
- 金型へのメッキ実施テスト

②押出成型不良の低減
- 立ち上がり品再利用の継続
- 適正な余熱時間の維持、管理

③検査不良率の低減
- フォローアップの強化
- 支援体制の強化
- 製造技術指導の強化

④ユーザークレームの撲滅
- 設備、機械等の点検強化
- 受入、出荷検査の強化

(3) 廃棄物排出抑制

①産廃(廃プラ)の削減
- サンワベトナムへのフォローアップ強化
- 技術支援の強化
- 製造技術指導の強化

②可燃ゴミの削減
- ゴミの分別
- 再利用に努める

(4) 総排水量削減

①冷却水使用量の削減
- 使用量の把握
- 冷却水の再利用

②生活水使用量の削減
- 水漏れの確認
- 節水の呼び掛け
- 水道を出しっぱなしにしない

(5) 化学物質使用量の削減

ブタノン使用量の削減
- 場内の清掃を定期的に行う
- 在庫品を汚さないように保管する

6. 環境経営目標の実績

本社佐野工場　実績

削減項目	2024年度目標	実績	差異	評価
二酸化炭素排出抑制	電力消費量削減 指数49.13 (使用量/溶着数)×100	53.88 (142,662Kwh)	+4.75	未達成
	軽油消費量削減 指数58.53 (使用量/溶着数)×10,000	61.93 (1,640ℓ)	+3.4	未達成
	灯油消費量削減 指数100.63 (使用量/溶着数)×10,000	89.43 (2,368ℓ)	−11.2	達成
		84,171kg-CO_2	-27,213kg-CO_2	
製造・販売・サービスに関する目標	組立工程内不良削減 2.4%以下	1.6%	−0.8%	達成
	押出成型不良の削減 2,178kg	1,550kg	−628kg	達成
廃棄物排出抑制	産廃(廃プラ)の削減 4,536kg	6,690kg	+2,156kg	未達成
総排水量削減	冷却水使用量削減 2,595㎥	2,070㎥	−525㎥	達成
化学物質使用量の削減	ブタノン使用量削減 0.02ml/枠数	0.008ml	−0.012ml	達成

※電気排出係数は、2019年公表の東京電力の0.462を使用。

静岡事業所　実績

削減項目	2024年度目標	実績	差異	評価
二酸化炭素排出抑制	電力消費量削減 指数33.76 (使用量/納品数)×1,000	35.65 (22,854Kwh)	+1.89	未達成
	軽油消費量削減 指数13.43 (使用量/納品数)×10,000	12.38 (794ℓ)	−1.05	達成
	灯油消費量削減 指数37.40 (使用量/納品数)×100,000	21.84 (140ℓ)	−15.56	達成
		13,184kg-CO_2	-1,887kg-CO_2	
製造・販売・サービスに関する目標				
廃棄物排出抑制	産廃(廃プラ)の削減 345kg	30kg	−315kg	達成
総排水量削減	水使用量削減 28㎥	26㎥	−2㎥	達成
化学物質使用量の削減	ブタノン使用量削減 0.02ml/枠数	0.008ml	−0.012ml	達成

※電気排出係数は、2019年公表の中部電力の0.472使用。
※製造・販売・サービスに関する目標は設定いたしません。

岩舟事業所 実績

削減項目	2024年度目標	実績	差異	評価
二酸化炭素排出抑制	電力消費量削減 指数205.59 （使用量/売上高）×1,000	185.18 (47,124Kwh)	−20.41	達成
	ガソリン消費量削減 指数17.11 （使用量/売上高）×1,000	15.27 (3,887ℓ)	−1.84	達成
		32,764kg-CO_2	−94kg-CO_2	
廃棄物排出抑制	可燃ゴミの削減 54kg（18袋）	54kg（18袋）	±0kg	達成
総排水量削減	水使用量の削減 60㎥	89㎥	+29㎥	未達成
製造・販売・サービスに関する目標	ユーザークレームの撲滅 クレーム0	5件	+5件	未達成

※電気排出係数は、2019年公表の東京電力の0.462を使用。
※化学物質については、使用がないため目標に掲げていない。

和泉倉庫 実績

削減項目	2024年度目標	実績	差異	評価
二酸化炭素排出抑制	電力消費量削減 指数68.37 （使用量/納品数）×10,000	73.00 (6,753Kwh)	+4.63	未達成
	軽油消費量削減 指数19.73 （使用量/納品数）×10,000	21.39 (1,978ℓ)	+1.66	未達成
	灯油消費量削減 指数45.15 （使用量/納品数）×100,000	45.84 (4,240ℓ)	+0.69	未達成
		20,552kg-CO_2	−1,478kg-CO_2	
製造・販売・サービスに関する目標				
廃棄物排出抑制	産廃（廃プラ）の削減 4,536kg	6,690kg	+2,156kg	未達成
総排水量削減				
化学物質使用量の削減	ブタノン使用量削減 0.02ml/枠数	0.008ml	−0.012ml	達成

※電気排出係数は、2019年公表の中部電力の0.472使用。
※製造・販売・サービスに関する目標は設定いたしません。
※上下水道の使用はありません。

事業所別二酸化炭素排出量推移

事業所	2022年度	2023年度	2024年度
本社佐野工場	125,475kg-CO_2	112,509kg-CO_2	84,171kg-CO_2
静岡事業所	15,234kg-CO_2	15,223kg-CO_2	13,184kg-CO_2
岩舟事業所	34,331kg-CO_2	33,190kg-CO_2	32,764kg-CO_2
和泉倉庫		22,253kg-CO_2	20,552kg-CO_2

7. 環境経営活動計画の取り組み結果と次年度の取り組み内容

7-1. 環境活動計画の取り組み結果とその評価

【本社佐野工場】

(1) 二酸化炭素排出抑制

・ 電力消費量削減について、電力消費量自体は前年度よりも下回っているが、溶着数に見合った電力消費ができていない。

・ 軽油消費量削減について、溶着数は減っているが、納品回数を減らすことは難しい。

・ 灯油消費量削減について、暖房を使用しない春以降、アニールによる使用を抑えることができた。

(2) 製造・販売・サービスに関する目標

・ 工程内不良率の低減について、昨年度新規品で不良が発生したものに改善が見られ、検品のタイミングの見直しの効果も表れた。

・ 押出成形不良低減について、不良数自体が減って、業者による引き取り量が減って達成できた。

(3) 廃棄物排出抑制

・ 期末に混合、パレット、ビニール、プラスチックなどの不燃物をできるだけまとめて処分するようにしたため、かなり増えてしまった。

(4) 総排水量削減

・ 冷却水の使用量の把握や再利用などが確実に行われていて達成ができた。

(5) 化学物質使用量の削減

・ ベトナム品率が上がり、使用量が減って達成できた。

【静岡事業所】

(1) 二酸化炭素排出抑制

・ 電力消費量削減について、本来であれば、出荷量が増える春から夏にかけてのピーク時にあまり出荷量が増えなかったことが未達成の大きな要因となった。

・ 軽油消費量削減について、効率の良い納品業務ができた。

・ 灯油消費量削減について、主な使用目的が暖房で、出荷量の減っていた時期と重なっていたため、指数が上昇して未達成となった。

(2) 廃棄物排出抑制

・ 少量の廃棄物処分で済んだ。

(3) 総排水量削減

・ 水漏れもなく、水の無駄使いもなかった。

(4) 化学物質使用量の削減

・ 本社にて一括管理。

【岩舟事業所】

(1) 二酸化炭素排出抑制

・ 電力消費量削減について、閑散期と繁忙期でバランス良く電力消費をすることができた。

・ ガソリン消費量削減について、閑散期と繁忙期でバランス良くガソリン消費をすることができた。

・ 灯油消費量削減について、暖房用ストーブに使用をするが、冬季の購入量を抑えることができた。

(2) 廃棄物排出抑制

・ 再生紙の利用など、積極的なゴミの削減ができ達成できた。

(3) 総排水量削減

・ 突出して多かった月はないが、毎月少ずつ未達成になっている。

(4) 製造・販売・サービスに関する目標

・ 5件の発生。現品相違と単純な人為ミスによるもので、防ぐことは可能であった。

【和泉倉庫】

(1) 二酸化炭素排出抑制

・ 電力消費量削減について、本来であれば出荷量の増える春から夏にかけてのピーク時に、あまり納品数が増えなかったことが大きな要因である。

・ 軽油消費量削減について、本来であれば出荷量の増える春から夏にかけてのピーク時に、あまり納品数が増えなかったことが大きな要因である。

・ 灯油消費量削減について、本来であれば出荷量の増える春から夏にかけてのピーク時に、あまり納品数が増えなかったことが大きな要因である。

(2) 廃棄物排出抑制

・ 本社にて一括管理。

(3) 化学物質使用量の削減

・ 本社にて一括管理。

7-2 次年度（2025年度）の取り組み内容と中期環境経営目標

【本社佐野工場】

・ 電力消費量削減については、溶着数が少ない時期に、いかに無理なく、また効率を良くして電力消費量を減らすことができるかを検討する。

・ 軽油消費量削減については、納品数が減少しても納品回数を減らすことはなかなか難しい。納品方法の効率化を検討していく。

・ 産廃（廃プラ）削減については、不良品や不必要なものはあまり溜めこまないで、再利用できるものはなるべく再利用するなど、適切な処理をねるべく早く行うようにする。

・ 目標を達成している項目については、現在の取り組みを継続していく。

【静岡事業所】

・ 電力消費量削減については、出荷量が少ない時期に、いかに無理なく、また効率を良くして電力消費量を減らすことができるかを検討する。

・ 目標を達成している項目については、現在の取り組みを継続していく。

【岩舟事業所】

・ 生活用水使用量の削減については、定期的に水漏れチェックを行う。特に冬季の水道管凍結に注意する。蛇口をしっかり閉めることの徹底。

・ ユーザークレーム数の撲滅については、あくまでもクレーム数0を目指すが、発生してしまった場合は迅速に対応し、同じようなクレームは発生させないようにする。

・ 目標を達成している項目については、現在の取り組みを継続していく。

【和泉倉庫】

・ 電力消費量削減については、出荷量が少ない時期に、いかに無理なく、また効率を良くして電力消費量を減らすことができるかを検討する。

・ 軽油消費量削減については、納品方法の更なる効率化を図り、エコとの両立をしていく。

・ 灯油消費量削減については、出荷量が好き内時に、いかに効率良くアニールができるかを検討していく。

・ 目標を達成している項目については、現在の取り組みを継続していく。

8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反・訴訟等の有無

・ フロン類の使用の合理化及び適正化に関する法律 ： 業務用エアコンの点検（年４回3カ月ごと）
・ 使用済自動車の再資源化用等に関する法律 ： リサイクル券の有無確認
・ ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法 ： 調査確認中
・ 労働安全衛生法 ： SDSの保管
・ 栃木県生活環境保全等に関する法律 ： 1日1回点検
・ 下水道法 ： 固形物や油は流さない
・ 浄化槽法 ： 年1回11条定期検査、年4回保守点検、委託契約書の確認
・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ： 委託契約書の締結及び届出
・ 栃木県地下水揚水施設に係わる指導等に関する要綱 ： 届出

本社佐野工場	2024年12月10日
静岡事業所	2024年12月10日
岩舟事業所	2024年12月10日
和泉倉庫	2024年12月10日

遵守状況をチェックした結果、環境関連法規等の違反はありませんでした。

関係当局からの違反等の指摘は過去にもありません。
また、訴訟も同様に、創業以来ありません。

9. 代表者の全体の評価と見直し結果

＜全体についての評価・今後のための指示事項＞

・ 和泉倉庫の稼働により効率が良くなり、全体的には電力、軽油、灯油などの消費量は前年よりも下回ってはいるが、取引先の主要生産品の一つである冷蔵庫生産の状況が厳しく、それに見合った当社の消費対応はなかなか難しい。
厳しい状況はまだまだ続く見込みなので、それに対応していかなくてはならない。

・ 稼働率や歩留まり率の正確な把握が必要である。
その改善や不良品の処理などを適切に行って効率化を図り、厳しい状況の中でも収益性や生産性を向上していかなくてはならない。

環境系方針 ： 変更の必要はない。
環境経営目標 ： 変更の必要はない。
環境経営活動計画 ： 変更の必要はない。
実施体制 ： 変更の必要はない。
環境経営システム ： 変更の必要はない。